

## 審査の結果の要旨

氏名 杉山 昂平

この論文は、趣味における興味の深まりが、趣味縁（趣味を機縁とする人的ネットワーク）によって、いかにして可能になっているのかについて検討したものである。具体的には実践共同体の観点からアマチュアオーケストラの事例を、実践ネットワークの観点からアマチュア写真の事例について分析している。

### 概要

本論文では趣味を「専門的な楽しみ方をする余暇活動」と定義している。趣味については余暇研究におけるシリアスレジャー概念を中心に「趣味の専門的な楽しみ方」に関する研究が展開されてきた。本論文はこれらの知見を基盤にしながらも、学習科学におけるインフォーマル学習研究のアプローチを融合し、「興味の深化」という構成概念をもって趣味における楽しみを促進するための基礎研究を展開している点に新規性が認められる。

全体は5章構成となっている。1章では、趣味研究の動向をレビューしたうえで、「楽しみがいかにして促進されるのかを明らかにすること問題として位置付けている。2章では、楽しみの促進に類似した概念として学習科学における興味発展概念をとりあげ、趣味縁を通じて個人が特定の対象と持続的でポジティブな感情が伴った関係性を結ぶプロセスの解明という方法的な枠組みを提示している。

3章、4章では、2章で提示された枠組みに基づいた実証研究が報告されている。3章では実践共同体の観点から、15人のアマチュアオーケストラ団員に興味の深まりとその契機に関するインタビュー調査を行っている。分析の結果、「既存の所属団体の熱心な仲間からの期待に応え新たな挑戦課題に取り組むよう要求されることが興味の深まりを可能にすること」「外部の個人指導者が開くレッスンを受講することで既存の活動を相対化したり、異質な新所属団体に移籍した結果可能になるロールモデルの観察や、対照的な活動への参加によって既存の活動には欠

けていた側面を認識したりすることも興味の深まりを可能にすること」などが明らかになっている。4章では、実践ネットワークの観点から、14人のアマチュア写真家について調査が行われている。分析の結果、「多様な趣味人がSNS上で可視化されることや観衆からの反応を得ることはそれ自体が深い興味対象となり興味の深まりを可能にする一方で、それだけでは興味が深まらない場合もしばしばあること」「その場合刺激的な隣人や不特定の観衆に触発された後趣味人自らが表現の自己探索を行うことが興味の深まりを可能にすること」などが明らかになっている。

5章では3章、4章の知見を統合し、実践共同体と実践ネットワークは共に新しい興味対象に出会う可能性を意図せず創出するが、実践共同体の場合まず共同活動に趣味人を巻き込むことから、実践ネットワークの場合は個人的探究を触発することからこのプロセスが駆動されることや、実践共同体や実践ネットワークが連鎖して行われることもあることが研究の結論として述べられている。

## 評価

余暇や趣味に関する研究は長寿命化にともない重要性を増しているが、趣味を興味の深化という過程でとらえる研究は新規なものであり、実証研究から得られた知見の妥当性および生涯学習への応用可能性も含めて高く評価された。

一方で以下のような課題も指摘された。

- ・社会的世界や興味発展など、多様な領域から引用してきた構成概念を本研究に位置付ける際の説明に不十分な点が見受けられる。
- ・実証データから言える慎重な表現を抽象化する際に、飛躍した表現が見受けられる。
- ・興味発展を促す主体は共同体でなければならないのか、趣味に介入することは是とされるのかなど、本研究を介入の基礎研究として捉える場合の前提に関する議論が不十分である。
- ・批判的な研究と提言的な研究の結合が十分できておらず、文体に若干の揺れが見られる。
- ・社会教育や生涯学習など研究の応用可能性がある領域に関するレビューが不足している。

以上のような課題については、質疑応答の過程で申請者が十分に認識していることが示された。申請者はこれらの課題について今後の研究で乗り越えていく資質があると判断し、審査員全員が最終審査を合格とするという評価で一致した。

よって本論文は博士（学際情報学）の学位請求論文として合格と認められる。